



初日・二日目のビジネスデーでは「希望としていたところとあまり商談できなかった」という声もあれば「既存のお客様と実際に会ってお話しできた」「台湾バイヤーと実際に話してみると、仕入りたい商品やコラボしたい商品・色などが日本と違う傾向だったので、とても勉強になった」など、既存の取引先との親睦交流や、台湾市場のマーケティング・嗜好の違いについて話す出展社もいた。今回の文博会では、日本・韓国・マレーシアなど、数多くの海外企業が出展した。台湾現地バイヤーに実際に聞いた声を「台湾文博会

（株）ビジネスガイド社は昨年引き続き、4回目の日本館を主催・運営。今年の日本館では、昨年に比べさらに日本の色が濃く出た日本館となった。

今回は、団体出展社を含め全25社・14ブースで出展。日本伝統技術を使用した商品・アパレル雑貨・陶器・バッグやタオルなどの実用品・日本のデザイナーによる置物や絵など、様々な商品が出品された。



昨年引き続き、今年も日本館を開催！

レポート」最終ページにて紹介している。

また、一般公開デーでは、価格帯の差もあるが「思っていたよりも売れた」「途中で在庫がなくなかった」などの前向きな声が多く聞かれた。

キャラクターグッズを目的に来る来場者が特に多く見られたが、親日の国だからか、日本館の周りには多くの人が集まり「やっと日本館にたどり着けた」などの会話も多く聞こえた。

今回日本館に出展をした、ほとんどの企業からは「出て良かった」「また次回も出展したい」などの声が多かった。

次ページより、日本館に出展された各出展社の声を掲載しているので、次回出展を検討している方は、ぜひとも参考にさせていただきたい。

ショップ等の小売りだけでなく、イベント会社やアミューズメントパークなどのオリジナルグッズ製作を目的とする来場者や、IPで出展している台湾出展社と商談をするケースも少なくない。



今年も盛大に開催！ 2024台湾文博会

2024台湾文博会は、8月26日（月）～9月1日（日）の7日間、台南市にあるICC台南会場で開催された。文博会は、「デザイン」「クラフト」「IP（※）」に特化した展示会だ。（株）ビジネスガイド社が主催・運営をしている「日本館」は、主にデザイン・クラフトをメインに出展した。

台湾文博会は2010年より、台湾文化部主催のもと、一年に一度開催されており、過去の開催地のほとんどは台北市だが、2022年に台湾南部に位置する高雄市で初開催。2023年は台北で開催され、今年は「昔の日本に似ている」「台湾の京都」など、伝統的な文化色が多く残る街として親しまれている台湾南部に位置する台南市で開催された。



2023文博会では主に3つのカテゴリーごとに建物が分かれて開催だったが、今年は1つの会場で開催したことで、見やすいなどの反響が大きかった。また、昨年の出展社から要望が多くあったため、今年はビジネスデーが二日間設けられた。ビジネスデーと一般公開デーに分けられたことにより、新たにビジネスマッチングの制度が加わるなど、昨年よりもさらに進化した文博会となり、昨年の来場者数約60万人に対し、今年の来場者数は述べ62万人、出展社数570社・全700ブースを超え、取引金額数は約12億台湾ドル（約53億円、公式発表より）にも及び、大盛況で幕を閉じた。

※「Intellectual Property」の略称で、日本語では「知的財産を意味する。



## 墨田革漉工業(株)

市場調査も兼ねて今回出展しました。日本には文博会のような展示会があまりないので、現地の消費者の反応や意見がとても勉強になりました。台湾では基本的に台湾ドルで取引、購入されますが、円安ということもあり、価格設定には少し苦戦しました。台湾人は日本が大好きなので、日本館のブースにもたくさん人が来てくださり、毎日ものすごい人だかりだったのが印象的です。海外進出の第一歩としてとても適した国だと思います。



## スターフィールド(株)

今回は市場調査、ネット販売ブランドの宣伝を目的に、初出展しました。日本テイストの手作りキーホルダーがとても人気で、手に取ってくださる方が多くいました。ただ、現地で販売はせず、オンラインサイトで購入していただく流れでご案内しましたが、実際にオンラインから購入していくくださった方はごく少ないです。ビジネスデーでは台湾でのワークショップなどの商談ができました。全体的にオンライン購入を促すことがとても難しかったように感じました。



## (株)ケー・イー・アイ

海外進出はずっと考えており、通販から台湾の顧客が多いことが分かったので、今回このタイミングで、宣伝をメインに、市場調査、販売も目的として出展しました。日本テイストの刺繍タペストリーやトートバッグが特に人気でした。日本で人気のもの以外に台湾で人気のテイストが知れたので、とても良かったです。ビジネスデーでは、オリジナルのものを作りたいという企業さんや、花屋、雑貨屋、文具屋さんなどの方とお話できました。



## (有)エマート

海外展開と市場調査を目的に、タイミングも良かったので今回出展しました。初めはあまり期待していなかったのですが、一般公開デー一日からかなり売れ、今まで出展した売上のイベントよりも売れた感覚です。来場者層も関係してくると思いますが、女性向けが特に多く売れました。色もの、機能性の高いものもよく売れたイメージです。今回の出展で、台湾は全体的に購買意欲のある国だと感じました。また機会があれば出展を検討したいと思っています。



## (株)寺一

台湾市場の開拓と、代理店契約を目的として今回出展しました。契約はまだ分らないですが、代理店の方とお話もでき、持参した在庫もほぼ全て売ることができました。親御さんへのプレゼントで購入される方や、日本とは違い、色ものを購入される方が多い印象でした。ビジネスデーでは、ギフト関連、貿易エージェントの方とお話できました。一般公開デーでも、一般消費者に紛れて来られるバイヤーさんがいらっしやいます。次回の文博会も検討したいと思っています。



## 公益財団法人仙台市産業振興事業団

今回は仙台地域の9社の企業さんと一緒に出展しました。伝統工芸関連の商品が多いということもあり、ブースにはたくさんの方が来てくださいました。ポストカードやスカーフハンカチなどの比較的値段の安い小物の売れ行きは好調でした。値段の高いものは、興味を持ってくださる方はいましたが、あまり販売にはつながらなかった印象です。周りがIP関連の出展社さんが多かったため、来場者層も若めの方が多く、次回出展する際は改めて戦略を考えるべきだと実感しました。



## (株) Show-Mon Art

台湾ではどんな商談ができるのか、市場調査も含め、今回出展しました。率直な感想としては、こんなに売れると思っていませんでした。アートはがきや、キャラクターもの絵が特に人気でした。その他にもお猪口や、ホームペー ジを見て作品を購入してくださった方もいらっしやいました。ビジネスデーでは、ECサイトの方や、名刺をデザインしてほしい方からのお声がありました。今回でかなり手応えを感じました。次回も機会があれば出展を検討しています。



## YAMANAKA Lacquer Ware Sagittarius 5 Arrows Project

今回は海外の販路開拓を目的として、5社の商品を出展しました。ビジネスデーの名刺交換の質もよく、台湾のTSUTAYAの方やレストラン、IP関係の方との商談ができました。台湾の消費者からの反響もとても良く、売上が予想よりもかなり多かったです。その中でも、お椀がよく売れました。途中で商品が足りず、バタバタしましたが、最後には持ってきた商品のほとんどが売れました。台湾文博会は初めてでしたが、出展して良かったです。次回も検討したいと思っています。



【日本館出展社の声】

INTERVIEW

実際出展してみてどうでした？

新居田物産(株)

海外の販路開拓のため、今回出展しました。昨年の文博会に比べ、ビジネス目的で来られる方が多かったです。台北からの来場よりも台南現地のバイヤーが多く、デザイナーやグッズ製作の方をメインに商談ができました。一般公開デーでは持参した在庫が完売するほど人気で、対応が間に合わない場面も多々ありました。在庫に関して、もう少し持つてきてても良かったかなと思いました。今回の反響がとても良かったので、今後本格的に台湾でのビジネスにも力を入れていこうと思います。



藤原染工(株)

海外の販路開拓や市場調査を兼ねて出展しました。事前に文博会での直接販売も可能だと聞いていましたが、主な目的としては、直接の販売ではなく、代理店や店舗開拓の商談を想定していました。しかし、ビジネスデー、一般公開デー問わず、予想以上に直接販売が好調で、持参した商品の半数以上が3日で売れてしまいました。サイズ展開や色の好みの傾向など、台湾の購買者の声を直接聞くこともでき有意義な出展でした。出展終了後に台湾をはじめアジア圏数社の企業との商談も進行中です。



村上工作所

ブランドの宣伝を目的に今回は出展いたしました。海外での展示会出展自体が初めてでしたが、想像以上に反響があり驚きました。小売店や建築業の方と商談ができ、実際に取り扱いの是非まで検討いただけるところまで話が進み、大変喜ばしく思います。今回出展したのはシンプルなデザインが多かったのですが、次回は台湾向けに比較的可わいいデザインを中心に展開できればと考えております。展示会初出展に台湾を選んで良かったと思っています。



龍宮(株)

海外販路開拓と市場調査のために今回出展しました。もともと販売予定はなかったのですが、どうしても購入したいという方には販売をしました。手に取られるのはベビー系の商品が多かった印象です。思っていたよりもIP関連の出展社さんが多く、来場者さんも子ども連れや若めの方が多かったです。ビジネスデーでは刺繍屋、ECサイトの方と商談ができました。ただ、to Bに期待していた分、商談機会が少し少なくて感じました。今回の出展を通して、台湾消費者の傾向などとても勉強になりました。



台湾現地出展社紹介

good good goods(ggg)

今年5月に開発者3人で立ち上げた新ブランド。茶色のピースを組み合わせると、木に見立てたインテリアができる。環境に優しく、なおかつ持続性可能なものは何かと考えたときに生まれたのがこの商品だという。廃棄されたプラスチックを使用し、ピースは「Y・O・I」の全3種類。3つの角度での展開が可能なので、自分好みのインテリアとして組み立てることができる、解体も簡単。それぞれのピースにコケや樹皮などの材料と植物を入れると、本物の木から植物が生えているように見え、一つ置くだけで、空間が一気にオシャレになる。不要になった場合はプラスチックごみとして処分すること



▲ 開発者三名 (左から林峻徳氏・丁育民氏・陳冠儒氏)



▲ 再生利用のプラスチックを使用して製作されたピース



▲ 組み立て完成後の様子

で、使用後にもリサイクルされ、環境に優しいSDGs商品となっている。 「この商品を通じて、植物をもっと身近に感じていただき、植物と空間で日々の疲れを癒やすきっかけになればいいなと思っています」と、開発者の一人である丁育民氏 と言う。今後は海外の販路も開拓していきたいと思っているとのこと。

東東市

台東県の伝統的な文化と技術を伝えたいという想いから作られたブランド。全ての商品は、台東県にある素材を使用し、現代の日常生活に溶け込むようデザインされている。今回の台湾文博会では、月桃・カラムシ(苧麻)・ヤシの葉・カジノキの樹皮(構樹)・布切れ・パラコードの「全6つの材料×6つの原住民族の工芸家」によって作られた商品を紹介した。

「台湾では16の原住民族が政府より認定されており、台東県にはそのうち7の民族が暮らしている。また、原住民族だけでなく、世界各国からの移民も多く、台東県は、台湾の中でも国際色豊かで、世界の文化が融合している都市だ」。そう語るのは台東県の工芸品を扱うセレクトショップ「東東市」を運営している黄秀玲氏だ。東東市では、商品の販売だけでなく、台東県の伝統工芸を多くの方に認知してもらうことを目的として、工芸教室を開いている。「これからは台湾国内だけでなく、日本をはじめ、海外展開にも力を入れていきたいです」と黄氏。



▲ 月桃を使用したバッグ



▲ 樹皮で製作されたランプ



▲ 布をリサイクルして製作された商品



# 台湾現地出展社紹介

山霧設計股份有限公司 (Zenu Design)

写真は台湾嘉義県にある「阿里山」をイメージして製作されたアロマディフューザー。陶器で製作された山は阿里山の形になっており、スイッチを入れると、煙が霧のように緩やかに動き出す。オイルは全て山の香りをイメージして調合され、全3種類ある。

1つは山麓をイメージし、雨が降った後を連想させるようなリラックス効果のある香り。

2つ目は森の中にいるような感覚にしてくれる、木と葉が混ざったような香りで、睡眠時にぴったりの香りだという。

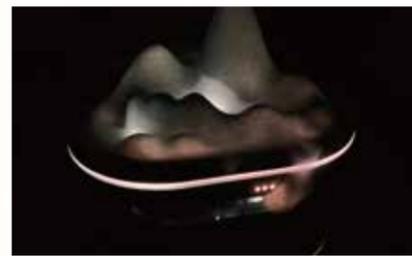
そして最後の香りは山の頂上の香りになるべく近くなるように調



▲ 3つのアロマオイルとディフューザーのセット商品



▲ ディフューザーの上に小さい置物を置いて楽しむこともできる



▲ 陶器部分は半透明に透けて見える

合され、霧を連想させる香りとなっており「何かに集中したいときに使用してほしい」と同社CEOの周于皓氏は言う。

忙しい日々、癒やしと優しさを感じてほしいという想いが込められて製作された商品だ。

「山の雰囲気や香りから元気や勇気をもたらるので、山に行かずとも山に行ったような感覚を味わってほしいです」と周氏。台湾の代表的な山とされる阿里山を起点とし、今後は海外展開を視野に入れ、各国の山の形をイメージしたアロマディフューザーをつくる予定だという。

台湾の伝統的な自然素材を使ってアクセサリー、インテリア商品をつくる本質創作室。

主に月桃・マニラアサ(蕉麻)・桂竹の3つを使用しているという。桂竹と台湾の大理石でつくられた花瓶が特に人気で、実際に美術館や画廊で空間デザインの一部として使用されている。

その他にも、日常的に使用できるピアス・ブローチなどのアクセサリーやうちわ、カバンなどを製作している。「全て自然素材で製作していることで、同じピアスでも色が少し違ったり、竹などは太陽にあたることで段々色が変化していきます」と注目していただきたいです」と創業者である李雅靖氏は語る。



▲ GUCCIとのコラボで製作された作品



▲ 大理石と竹で製作された花瓶



▲ 文博会で来賓の方に配られたブローチ

## 本質創作室

様々なブランドとコラボし、商品製作する他、海外ではパリの展示会「Maison&Objet」や「Best of nom」を獲得、インドではワークショップの展開、そして、2024年台湾文博会の来賓に配る記念品に選ばれるなど、様々な実績がある。海外でワークショップなどを展開する際は「それぞれの国の素材の良さを知ってもらいたい」という想いから、その国の伝統的な自然素材を使うようにしている。

# 台湾現地バイヤーさんの声

台南市美術館

台南市美術館オリジナルの商品を一緒に製作できる企業と新商品を探すことを目的に来場しました。

今回、日本から出展していたブランドと商談することができ、オリジナル商品製作に向けて、着々と準備を進めています。今後、若い年齢層にウケる商品を出すする企業も集めてほしいと思います。

また、現地出展社に比べて日本の出展社様は、サンプルなどを販売している出展社さんもありますが、パンフレットだけのところも多かった。

とても良い商品が多いので、社で検討するにあたって、実際に持ち帰れるサンプルがあるのとさらに良かったなと思います。

台湾では、日本の文具も有名なもので、手帳・万年筆・マスキングテープなどの文房具類を扱う企業をもう少し増やして欲しいと思いました。

全体としては、昨年に比べて今回は会場が一つになっていたので、すぐくまわりやすく、目当ての出展社様も見つけやすかったと思います。

MAD ART



今回はイベントでコラボができるクリエイターとイベントグッズを製作できる企業を探すことを目的に来場しました。

日本で製作し、送っていたけどことになるので、台湾の企業に依頼するのに比べて、少し時間はかかってしまいましたが、台湾では、「日本製安心」というイメージを持っている人が多いので、日本製のものでグッズ化ができればと思います、日本館を見に行きました。今回はその中で今治タオルを扱っている企業とお話できました。

サンプルなどが実際に手に取れて、企業の方と直接お話ができる機会があまりないので、このような展示会があるのはすごく助かりますし、とても勉強になります。

また、台湾文博会自体とても大きく、知名度もある展示会なので、各都市から来場する人が多い印象です。私も高雄市に住んでいますが、車で1時間くらいかけて来場しましたし、友人は台北市から新幹線で来ていました。

今後このような展示会が普段会えない企業と会うきっかけになったらいいなと思っています。

## 次回告知

# 2025台湾文博会 日本館開催決定!

**日程** 2025年 8月7日(木)～8月13日(水)

**会場** 台北南港展覽館



今年に引き続き、「クラフト製品・デザイン性のある製品」を主に募集いたします。「海外展開を考えているけど、不安」「台湾文博会について雰囲気など聞いてみたい」などありましたら、お気軽にお問い合わせください。

お問い合わせはこちらまで → (株) ビジネスガイド社 海外事業部  
TEL : 03-3843-9851 MAIL : overseas@businessguide-sha.co.jp